

第13回 松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

＜ フリートーク型 大庄地区にお住まいのみなさまと ＞

対話録概要

と き	令和6年11月19日（火） 午前9時30分から午前11時30分まで
と ころ	大庄北生涯学習プラザ 1階 コミュニティスペース
出席者	参加者 9人、市長ほか関係者 7人 計16人

【市長のあいさつ】

市長になってこの12月で2年を迎える。自分自身が市長になって13回目の車座集会である。参加者やテーマを特定し開催するものや、公募により可能な限り自由なテーマで開催するものがある。昨年度は前者の手法により4回開催したが、今年度は後者の手法により各地域でも開催していくこととしており、大庄地区はその6回目である。本日は皆さんから多様な意見をもらい、市政運営の改善へとつなげていければと思う。

【意見交換】

＜参加者＞保育の環境改善をしてもらいたいという思いをかつてから持っており、対市交渉などもしてきたが、なかなか改善されない。こどもクラブではランドセルを段ボール箱に入れるなど、見ていて可哀想に思うため、予算を充実し、環境改善を進めて欲しい。自分が前に住んでいた神戸ではそんなことは無かった。市の担当課には依頼しているものの、市長に声が届いていないのではと思い、本日参加させてもらった。子どもに関する施策については予算を削るのではなく、むしろ手厚く措置すべきと考える。

＜市長＞子育て支援施策については、冒頭、子ども子育てアクションプランの内容を説明したとおり、充実をしているし、今後も更に取り組んでいくつもりである。市民の皆さんが担当課に依頼したことは、全て市長に伝わるかというところではないが、児童ホームの環境については担当課にも確認しておく。市に対する要望活動は決して無駄ではなく、こうした声を上げてもらうことは行政運営の改善の動機にもなる。

＜参加者＞睡眠の確保は健全な発達、脳や心身の健康と密接に関係する重要な生活課題である。そのため、学校現場でも睡眠教育の必要性を子どもたちに伝えてもらいたいという考えのもと、教育委員会事務局にお願いに行ったが、各学校長の判断であるとの回答であった。その後、学校長と話をする機会があったが、否定されてしまい現在、自分自身で活動をしている。

＜市長＞学校現場においては1日の生活リズムを自ら整えることができる力を育成するため、「早寝・早起き・朝ごはん」が習慣づくよう取り組んでいる。提案をいただいた睡眠教育と言えるほどのものではないかもしれないが、適切な運動や食事、休養、睡眠の調和のとれた生活を続けてもらいたいと思っている。睡眠教育については広がって欲しいし、活動を応援したい。

＜参加者＞自分は地域活動をもっと充実させたいという思いがある。持て余した時間をもっと地域のために費やしたい。

＜市長＞本日の会場である大庄北生涯学習プラザや他地区においてはプラットフォームというものを開

催している。プラットフォームには皆がフラットな関係で集まり、仲間を募ったり、自分の活動に対する悩みを相談し、賛同したり、お互いにアドバイスするなどしており、各地区とも熱心に地域活動をしている方々がたくさん来ているので、是非とも参加してもらい相談してもらいたい。

〈参加者〉自分は大庄地区のプラットフォームである「ことはじめかいぎ」によく参加しており、市長の発言にもあったようにいろんな立場の人がフラットな関係で集まって話ができる素敵な場所であると思う。ただ、参加者は固定化する傾向にあり、地域住民同士のつながりはまだまだ希薄であるように思える。地域活動を更に発展させていくためにも、行政には地域発意の取組が上手くいくよう様々な主体とマッチングするような支援をお願いしたい。何等かの活動や取組の開始に向けて、まず一步踏み出したいがどこにいけばよいのか分からない人が多い気がする。

〈参加者〉自分は自治会の集会に参加するが「ことはじめかいぎ」の話がそこでは出ない。自治会と「ことはじめかいぎ」が上手く連動すれば地域力の底上げにつながると思う。

〈市長〉地域活動の開始に向けてまず一步踏み出したい場合は、まずは地域課を訪ねてもらえたらと思う。

〈参加者〉誰もが参加できるハードルの低い取組があれば、溶け込みやすいかもしれない。

〈参加者〉自分は会社のみんなでごみ拾いの取組を継続して実施しており、地域の皆さんとコミュニケーションを図ることのできる良い機会となっている。

〈参加者〉日々の暮らしの中では皆お金がない。あま咲きコインのポイント還元を充実したり、税負担を軽減するなどもっと市民生活が楽になるような取組をしてもらいたい。また地域貢献となる活動に対して、ポイントを付与するなどしてもらいたい。

〈市長〉コロナ禍や物価高騰が続く中であっても、市民が安心して暮らしていけるようあま咲きコインのポイント還元キャンペーンなどは継続的に実施している。また健康づくりや環境に優しい活動、ボランティア活動など SDGs の達成につながる行動を行った際には、あま咲きコインのポイントを付与する取組を行っている。

〈参加者〉公共施設にお湯が出るミルクを作ることができる環境を整えてもらいたい。民間の大型施設にはそういった環境がある。

〈参加者〉マンション管理について話をしたい。マンション管理は原則として、居住者の同意ときちんと管理費を集めることで成り立つが、居住者の高齢化や生活苦により管理費が払えない人も中にはいる。そうすると管理不全に陥り、退去する人が続出し、たくさんの戸数がある割には居住者が僅かといった事象が生じ、行政としても望まない状況に陥る可能性もある。マンション居住者にはこうした危機感を持っていただき、管理不全に陥らないためにも分譲マンション入居者に対する適切なマンション管理に関する説明会の充実をお願いしたい。

〈市長〉どこまで行政が介入するのかといった問題がある。もちろん建設時の許可などは行政が関与するが、その後のマンション管理は入居者たちの自宅をどうするかという問題である。例えば、長屋や文化住宅は空き家や倒壊の危険性などもあるため、安全な住まいを確保する観点から行政が介入するケースもあるが、マンションに関してはまずは居住者同士で議論してもらいたい。

〈参加者〉尼崎市の財政状況は改善してきているとのことであるが、改善した分の予算はどこに回されているのか。まだまだ改善すべき点がある中で、現在無償としている公共施設の利用時にも使用料を徴収するなど歳入確保もしていくべき。

〈市長〉冒頭の説明にもあったように借金である将来負担残高も他都市に比べると多く、引き続き市債残高縮小に努めていかなければならない一方、子育て支援施策の充実にも取り組むなど、健全な財政運営と施策の充実を両輪で進めているところである。

〈参加者〉自分は会社経営をしているが、更正支援のために刑務所出所後の従業員を複数人雇用している。再犯防止のためには仕事に就くことが大事であるし、安心して過ごせる住居も必要となる。行政には市営住宅を活用した入居支援をお願いしたい。また、自身の会社のような協力雇用主がもっと増えていけばいいと思っている。

〈参加者〉自分は図書館をよく利用する。兵庫県立図書館によるネットワークを利用した図書館機能の拡大により、今年1月からオンラインでの登録で読みたい本が県図書館から尼崎市市立図書館に転送され借りることができるようになっている。こうした内容を市立図書館職員に確認するも、把握していない様子であった。県立図書館と市立図書館の連携、また図書館行政に関してもっと理解を深めてもらいたい。

〈参加者〉認知症の方はとても多く、高齢者の5人に1人が認知症とも言われている。そうした中、徘徊し警察に保護されるようなケースも今後増えることが想定される。神戸市では警察に保護された身元不明の徘徊老人を介護サービス事業者が一時的に保護するような仕組みを導入している。なお、同事業者間で輪番対応するなどしている。こうして先行して取り組んでいる自治体の事例も参考に尼崎市でも同様の取組を開始してはどうかと考える。ちなみに一時保護する事業者としてはそれほどの負担でもない。

〈市長〉高齢化が進む中、認知症になっても安心して生活ができるよう他都市の事例も参考にしながら福祉施策を進めていきたい。

【おわりに】

〈市長〉いただいた意見については、今後の市政運営の参考にさせていただく。市の組織は大きいと言えど、庁内職員とコミュニケーションを図りながら、意見の市政への反映を検討していく。

以 上